

正岡 さち（島根大）

【目的】世界でも類のない急速な高齢社会を迎える日本において、高齢者が暮らしやすい空間づくりは急務の課題となっている。研究面においても、バリアフリー住宅やユニバーサル・デザインの研究は多方面から行われている。しかし、住空間における研究に目を向けると、住宅の物理的な側面からの研究は多く見受けられるが、心理的側面からの高齢者が快適と感じる空間に関する研究はほとんど見あたらない。そこで、本研究では、高齢者に快適と感じられる空間づくりに役立てることを目的に、心理的側面から研究を行うことを主目的とし、研究を行った。

【方法】雑誌などから取り上げた住宅居間の写真をスライドに撮影し、SD法により被験者に評価させる方法を行った。対象の居間は30種類、被験者は男女大学生23名、高齢者（平均年齢70.08歳）13名である。

【結果及び考察】①平均値プロフィールより、若年層が好きで住みたいと感じている洋風空間は、高齢者層が嫌いで住みたくないと感じているタイプが多く、逆に、高齢者層が好きで住みたいと感じている和風空間は、若年層は嫌いで住みたくないと感じているタイプが多かった。②因子分析の結果、若年層では4因子が析出され、それぞれ価値因子、すっきり感因子、個性因子、開放感因子と意味づけた。高齢者層では5因子が析出され、価値因子、豪華さ因子、和風因子、すっきり感因子、個性因子と意味づけた。